

2年生 美術科

1 美術の目標

- (1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができるようにする。
- (2) 自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
- (3) 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。

2 授業の評価

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・対象や事象を捉える造形的な視点について理解する理解している。 ・意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の造形や美術作品などの造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、機能性と洗練された美しさとの調和、美術の働きなどについて独創的・総合的に考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していこうとしている。
作品の出来映え、ワークシート、道具の使い方	アイディアスケッチ、作品の出来映え、鑑賞ワークシート、相互評価、グループでの話し合い、発表	授業の様子、制作への取組方、自己評価用紙、ワークシート、発表の様子、作品票

3 美術における学習評価の進め方

(1) 内容

美術には2つの分野があります。3年間でまんべんなく学習します。

- 「A 表現」：①感じ取ったことや考えたことの表現 ⇨ 絵画・彫刻
 ②目的や機能の表現 ⇨ デザイン・工芸

- 「B 鑑賞」：①美術作品などの見方や感じ方を深める活動
 ②生活や社会の中の美術の働きや美術文化についての見方や感じ方を深める活動

- 「(A・B) 共通事項」：①形や色彩、材料、光などの性質や、それらが感情にもたらす効果などを理解する。
 ②造形的な特徴などを基に、全体のイメージや作風などで捉える。

(2) 学習の中で見取った事柄を評価する時

・十分満足できると判断されるもののうち、特に程度の高いもの	⇨ A [○]
・十分満足できると判断されるもの	⇨ A
・おおむね満足できると判断されるもの	⇨ B
・努力を要すると判断されるもの	⇨ C [○]
・一層努力を要すると判断されるもの	⇨ C

このように表記し、みなさんへお返しします。

自己評価用紙については、みなさんの学習状況がわかるものです。「がんばった」と記入しておけばよいのではなく、「今日の学習の進み具合から、今後どうしていくと目指したい作品に近づくのか」を、先生や友達のアドバイスをもとに、考え、組み立てていく力が求められます。毎時間のゴールを自分で設定し、その時間の取組方を振り返りながら学習を進めていきましょう。

4 授業のきまり

- ①時間厳守！（授業の開始時間、プリントや作品の提出期日など）
- ②危険なこと、人を傷つけること、人に迷惑をかけることは絶対にダメ。
- ③忘れ物に注意する!!（作品作りに影響し、評価への影響も出ます。）
ただし、忘れた場合は、休み時間のうちに連絡しにくること。
- ④友達から、教科書などの貸し借りはしない。
- ⑤盛り上がるときは盛り上がる、聞くときは聞く、やるときはやる！

5 持ち物

- 教科書（美術2・3年上）・ファイル⇒美術室に置いていてもよい
- クロッキー帳・デザインセット⇒美術室の棚に保管
- ※その他、必要に応じて準備してもらうものがあります。

6 1年間の流れ（おおよその流れになります。）

時期	学習内容	学習目標
前期	オリエンテーション	○1年間の学習内容を知る。
	デザインの力でできること 【鑑賞】	○形や色彩、機能などの工夫で生活や社会を豊かにする美術の働きについて考え、鑑賞する。
	その1枚が心を動かす	【芽室町「3つの心運動」のポスター作り】 ○伝えたい内容やイメージ、伝える場面などをもとに、形や色彩などによる伝達の効果を考える。
	浮世絵っておもしろい 【鑑賞】	○浮世絵の魅力や特色について関心をもちながら、美術文化の継承と創造について考える。
後期	日本の技と心を受け継いで	【木目込み毬】 ○日本の伝統工芸に関心をもち、季節感を取り入れた日本の伝統文化や日本古来の文様、日常生活などから主題を生み出し、形や色彩、材料などの効果を考え、見通しをもってデザインし表す。
	使う人の立場で考える 【鑑賞】	○だれもが安心して豊に暮らせる社会をつくるために、さまざまな人の立場になって、安全で使いやすいデザインを考える。
	写真表現の魅力	【写真】 ○写真表現の特性を生かして、被写体の印象や瞬間の美しさなどをもとに構想を練って表現する。

2年生以降は、心に感じ取ったイメージや心情をどのような構図や技法、色彩、形態などで表現すればよいか試行錯誤する時間が増えます。そうすることで、新しい表現方法を発見し、自分の世界の広がりを実感できる楽しみをたくさん味わおう。